

ジョブコーチ支援をシリア難民、パレスチナ人へ

プロジェクトでは6月23日から3日間、国際団体、機関向けのジョブコーチ養成研修を実施しました。ヨルダン国内のパレスチナ難民キャンプで雇用を促進するスタッフ5名、パレスチナのヨルダン川西岸で活動するHIとYMCAの職員、ILO、シリア難民の就労を支援する国際NGO2団体など様々な機関に勤務する職員20名が参加し、活発なやり取りが見られました。ヨルダン人障害者に比べさらに困難なシリア人、パレスチナ人の就労が少しでも前進することを期待しています。



講義風景



グループワーク風景

ジェラシュ社での就職説明会

サハブ工業地域にある大手の衣料品企業ジェラシュが、就職説明会を行いました。当社は障害者雇用を積極的に進めており、多くの視覚・聴覚障害者が真剣に耳を傾けていました。



↑多くの女性と障害者が参加

↓視覚障害を持つ求職者の記入作業を人事課の職員が手助け



スポーツ活動再開

シリア難民障害者の社会参加のいち手段として卓球やジムでのスポーツ活動が国際NGOのUPPIによって再開されました。UPPIは今まで戦傷者への心理サポートとしてピアカウンセリングをヨルダンで展開していましたが、スポーツ活動がコミュニティ活動への復帰の第一歩であるとの認識から、団体の新規活動として取り入れられたものです。